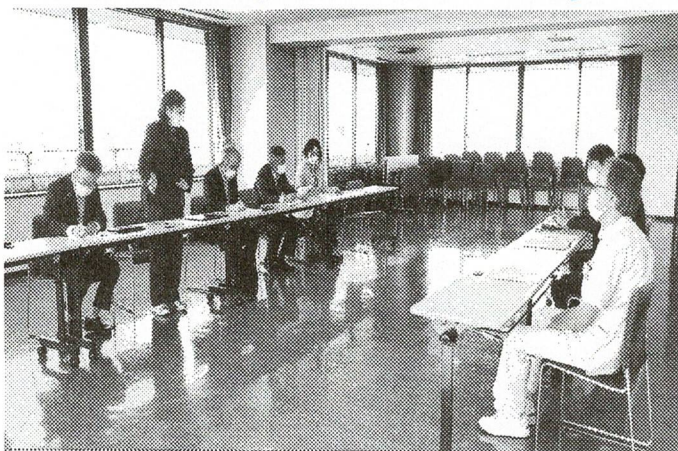


コロナ入院は、最大26名まで受け入れていた！ 現在は10名程の受け入れ体制にある…水沢病院



水沢病院で、菊池院長等（右側）から聞き取りを行う議員団（左側）

5月24日、水沢病院を訪問し、菊池院長、遠藤看護部長、事務局長が議員団の調査に対応していただきました。

千田みつ子県議は、「今回の2類から5類への移行によって、医療現場が実際どのような状況にあるか、率直な声や要望をお聞きした

奥州市議団と千田みつ子県議は、5月8日から感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ5類に移行された新型コロナウイルス感染症の実態について、水沢病院とまごころ病院を訪問し、実態について聞き取り調査を行いました。

夜勤者は、仮眠が
まったく取れなかった

「い」と切り出しました。

これに対し、菊池院長は、「入院患者への面会等は、基本的には5月8日前と変わらず、入院患者への面会はさせていない。5類に変わったことによりしがらみが減り、職員の気持ちも楽になった感はある。また、5つの病院が新たにコロナ患者の入院に参画することになったが、水沢病院へのコロナ患者はこれからの多いのではないかとと思う」等と述べました。

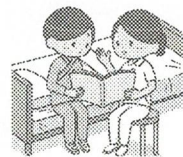
遠藤看護部長は、「高齢者施設のクラスターの発生や衣川診療所、まごころ病院からの患者の紹介等、市の医療機関どうし連携して取り組んで来た」「中等症で認知症の患者の入院により、夜勤者は全く仮眠が取れなかった」と、現場の厳しい実態について述べました。



民報
おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049



ウイズコロナで、発熱者も
通常の診療の場で診察すること

水沢病院の発熱外来は、基本午後の受付となっているが、午前中でも看護師がトリアージして、リスクが最小になるように対応している。

また、完全にコロナ患者か否かを分けることは難しいため、発熱者も通常の診療の場で診察することになる、と述べました。

コロナを持ちこまない、
持ち出さない

また、看護体制については、市の医療計画のもと、看護師の採用が5年前から15人から16人程度減っており、その中でコロナが蔓延したため、看護体制に全く余裕が無い状況となっている。

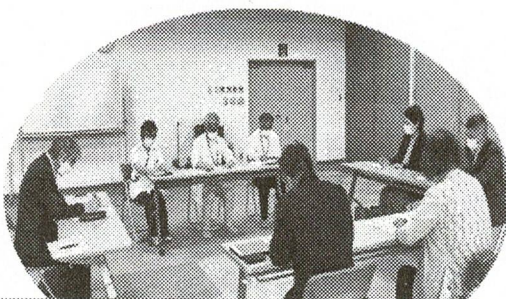
そのため、コロナを持ちこまない、持ち出さないことが重要となっている、と述べました。



一般病床にコロナ病床が2床
看護師の緊張が増している

5月25日、まごころ病院を訪問し、伊藤院長等から聞き取りを行いました。

伊藤院長は、今年4月からまごころ病院に就任されたばかりです。（伊藤先生は、平成17年から勤務されて19年目になるとのこと）



まごころ病院で、伊藤院長等から現状について聞き取り 5/25

院長は、まごころ病院の即応病床は2床であるが、一般病床（48床）と同じフロアにある2床のため、夜勤2人体制の中で、他の患者との兼ね合いもあり、看護側の緊張感がいつそう増している、と語りました。

また、医師の問診は、フェイスシールドのみで対応しており、ワクチン接種は5月から始めている。病床の増床については、状況に応じてやらなければならないと考えている、と述べました。

さらに、職員が安心して勤務するためにも、職員用の抗原検査キットや防護服、フェイスシールドなど、資材への支援をお願いしたいと述べました。

職員用の抗原検査キット
防護服・フェイスシールド
等の提供をお願いしたい

岸田政権の「大軍拡」反対、改憲許すな！

日本共産党演説会

田村智子副委員長来る！！



弁士：党副委員長
田村智子

○6月11日(日)
午後2時～
○奥州市文化会館
(Zホール)



弁士：県議会議員
千田みつ子

どうぞ誘いあつて
ご参加ください